

入院患者の転倒転落発生率

QI 項目の解説

入院中の患者さんの転倒やベッドからの転落は少なくありません。原因としては、入院という環境の変化によるものや疾患そのもの、治療・手術などによる身体的なものなどさまざまなものがあります。転倒・転落の指標には、「転倒・転落によって患者に傷害が発生した損傷発生率」と患者への傷害事例に至らなかった転倒・転落事例の発生率との両者を指標とすることに意味があります。

本指標では、より低い値が望ましいとされています。

転倒転落発生率の割合

QI 指標の定義・計測方法

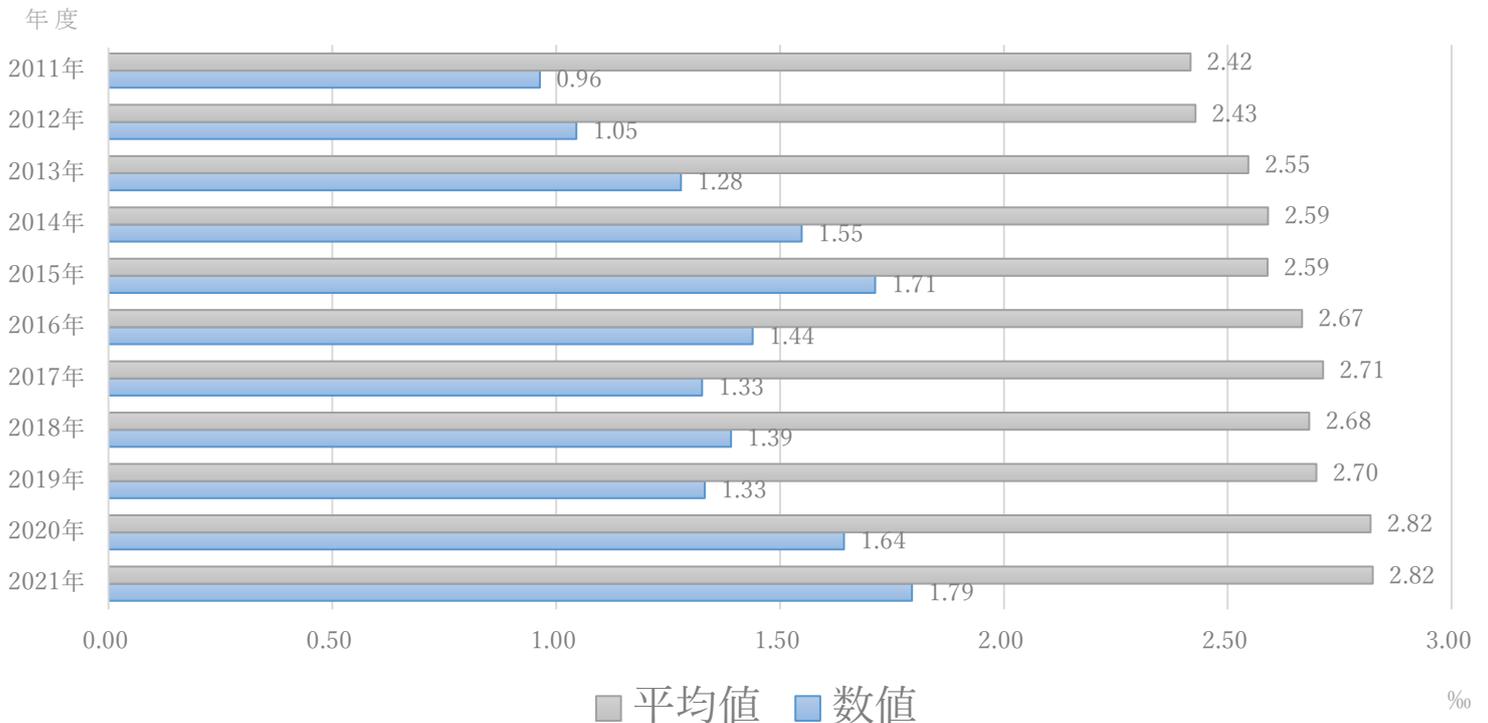
分子：医療の質・安全管理室ヘインシデント・

アクシデントレポートが提出された転倒・転落発生数

×1000【‰】

分母：入院延べ患者数

入院中の転倒転落発生率



2021 全施設平均値との比較・原因分析

全国 QI 参加病院平均値を下回っており、2021 年度は 1.03%低い結果です。

2021 当院データと2020 当院データとの比較・原因分析

0.15%増加したが昨年度と大差はなく、全国平均値と比較すると低い水準です。

数値改善に向けた今後の取り組み

リスクマネージャー会議の転倒転落ワーキンググループで、月 1 回の病棟ラウンドと転倒転落の事例分析・対策を「転倒転落 WG レター」に掲載し周知を行い、今後も継続的に取り組みを行います。

転倒転落発生率（レベル 2 以上）割合

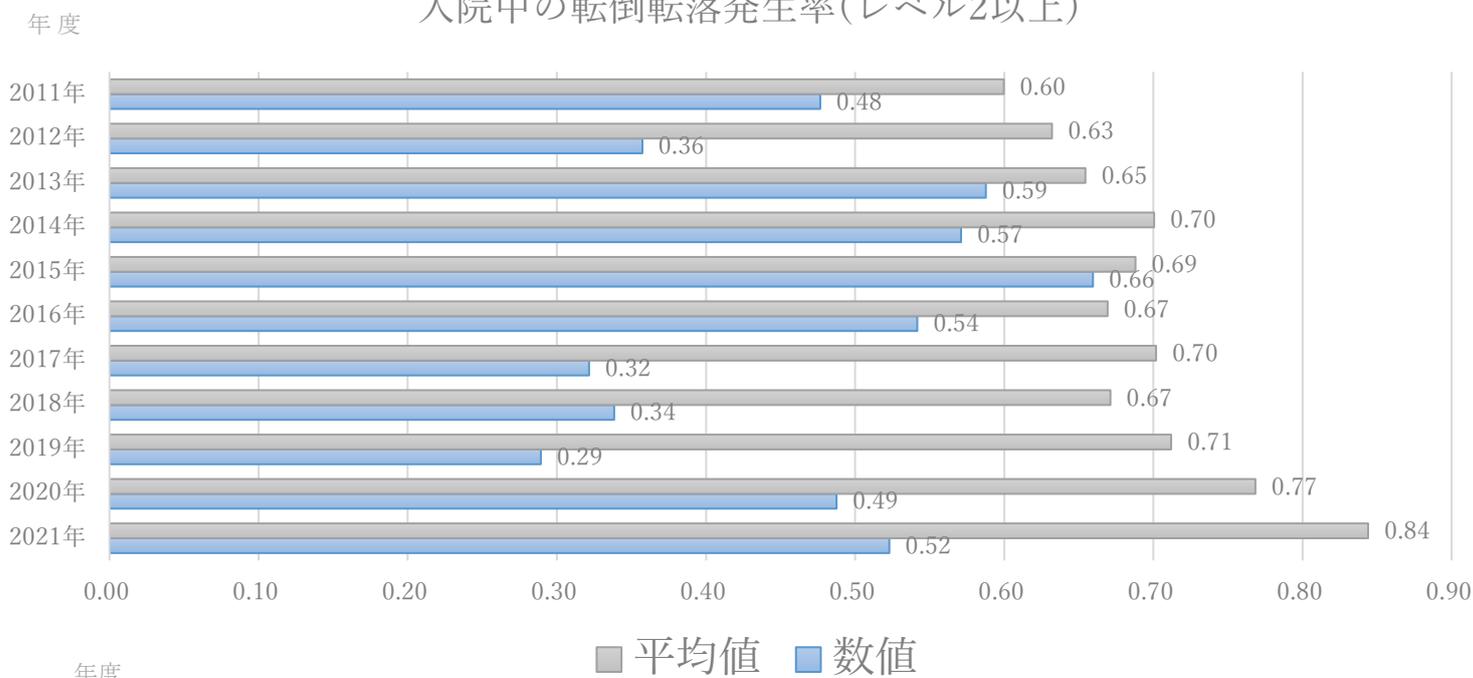
QI 指標の定義・計測方法

分子：医療の質・安全管理室ヘインシデント・アクシデントレポート
が提出された転倒・転落件数損傷レベル 2 以上の件数

× 1000 【%】

分母：入院延べ患者数

入院中の転倒転落発生率(レベル2以上)



2021 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

引き続き全国 QI 参加病院平均値を下回っており、2020 年度は 0.26%低い結果です。

2021 当院データと 2020 当院データとの比較・原因分析

2020 年度より 2021 年度は 0.2%増加したが、全国平均値と比較すると低い水準となります。

2019 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

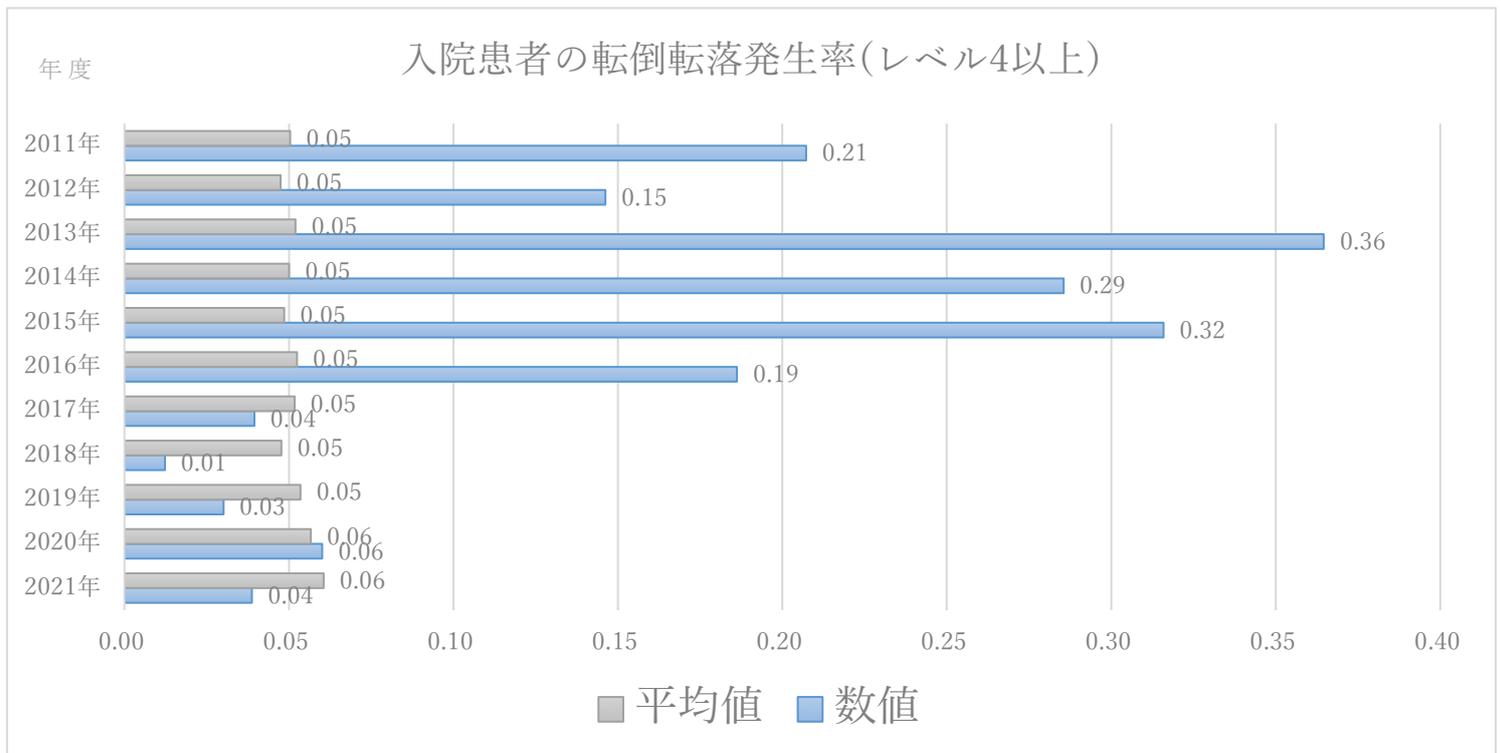
リスクマネージャー会議の転倒転落ワーキンググループでの取り組みの継続により、転倒転落発生率は、低値に抑えられていると考えます。

入院患者の転倒転落発生率（レベル4以上）の割合

分子：医療の質・安全管理室ヘインシデント・アクシデントレポート
が提出された転倒・転落件数損傷レベル 4 以上の件数

× 1 0 0 0 【‰】

分母：入院延べ患者数



2021 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

2021 年度は全国 QI 参加病院平均値よりも 0.02%低い値です。

2021 当院データと 2020 当院データとの比較・原因分析

2020 年度と比較し 2021 年度は、0.02%減少しています。

数値改善に向けた今後の取り組み

転倒をしても重症化しないために、ベッド周りの環境調整、緩衝マットの使用、ベッドの位置（壁付けにする。低床にする）などの対策を日頃から行うよう周知します。

2021 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

2020 年度に実施した転倒転落リスクの高い患者さんに対する緩衝マットの使用推奨により、数値の減少が図れたのではないかと考えます。